

# 一年保育と 二年保育の問題

<その3>



## 立子山トク

### (一)幼年期の教育は

#### いつから始めたらいいか

近頃幼年教育ということがしきりに言われこの時期の教育の重要なことも漸く認識され研究も盛になつて参りました。幼年期といひますと幼稚園の二年間と小学校二年迄のことものとしますが、その教育について幼稚園から小学校への移り方がうまくいかないとか、幼稚園と小学校の連絡をどうするか、というような事が近頃問題になつて居ります。

それで幼稚園では幼稚園という城を築いてその中でだけ教育をしては過されません。この問題を解決するためにもこどもの発達段階から考へて小学校の低学年を研究することが必要とされます。

或幼稚園では小学校の職員会にも出席し、リクリエーションも一緒にするようになって居ります。「よい仕事に勇気を持って」と言いますが、積極的に小学校の先生とも話し、一緒に仕事もして、出来るだけ現状を知りそ

の上に共同研究をして行きたいと思ひます。又近頃小学校の先生からも是非そのような会を持つように幼稚園の方から盛り立てて欲しいと、熱心な声をききますので、その時期も遠くない事でしょう。

一年保育と二年保育についてどう思ふかという事です。私は出来たら全部二年保育にしたいと思つて居ります。若し幼児が幼稚園教育の二年間を、系統的に集団生活が出来たなら、もう少し落着いたことにもなれると思ひます。而し現状は応募者の数によつて或る年は一年保育優先になつたり、二年保育と混合になつたり、三年保育も入つて来たりまちまちです。或る研究会で二年保育の幼児は二年入つたという事を自慢するので困るといふ意見が出てそれには親もそう思うし幼稚園の先生もそう思つて居るのではないかという事で問題になつたのださうです。私は二年保育は望みますが、このような態度がこの時期につけられたとしたら幼児にとつて不幸だと思ひます。勿論幼児が普通に発育しているものならば、四才から集団に入り望ましい生活

をして豊かな経験をもち、独立してよく考えるように方向づけられれば個人としても幸福であるし、集団の一人としても立派な成長をしているのですが、それをさまたげるものが幼児の正常な発達を阻害しているようです。深く反省しなければならぬ事だと痛切に感じます。まわりの者が自分さえ気付かないうちに随時出て来る言葉なり態度がよい経験を子期しての二年間の教育にかえつてこんどは取り去るのに困難なことが身について困るということになるのではないのでしょうか。

新しい教育課程は小学校との一貫性をも考へて立案されて居りますので共同の研究も為易くなり、関連もつて来ることと思ひますが、道徳教育の面で、両親も教師も発達の途中にある幼児に及ぼす影響について、もつとほり下げて考へてみなければならぬと思ひます。それからもう一つ大切だと思ふことは、大人の態度が知らず知らずにも子どもの心に影響しているということを日常の動作によつて気付かなければならぬ筈ですが案外幼児の敏感に対して鈍感なのではないでしょうか。

私は幼稚園の先生はもつとやさしさに於いてもきびしさに於いても感じ易い人がいいと思います。子どもが日常自然や社会の事実から感じとる事が出来るように抑圧を加えないで伸び伸びと生活させることが大切です。

## (二) 一年保育と二年保育を

### 一しよにした場合

一年保育と二年保育を一しよにしてこの段階の発達を十二分に助長しなければならぬ現状を過去の経験から見つめますとお互に啓

発し合うということがいたるところにあります。一年保育の幼児は同じ経験の幼児ばかりの場合よりも幼稚園生活に早く馴れて行くようになります。また二年保育は園にもなれて居るところから活潑に動きますので或る幼児はホス的存在になりどうも幼稚園に入つてからいけない事を覚えたり言葉が乱暴になつて困りましたと家庭から苦情を持たれることもありまますので注意しなければなりません。どちらも新しい場で生活するのでよい事も困つた事も出てきますが問題の解決に当つては幼児も

先生もその場合どうするのが一番良いかということを一しよに考へて決つた事をみんなを守るようにして居ります。仕事をして二年児はすぐに考へた事を始めますが一年児はそれをみて居る期間があります。大切な事です。漸く発表しはじめたと思ふころには修了も近いわけですが二年児の場合優越感をもつてこれでもいいと満足に止まらないように一年児は自分もやれば出来るという気持を育てるようになりたいと機会がある毎に心がけます。

幼児はみな満四才から幼稚園に入ることが出来たらそしてこの時期に人間としての基礎がしつかりと愛情で培われたら世の中は大部分變つて行くように思ひます。而し再びくりかえすことのない而も一生を支配するかも知れない幼児期にこの権利を与えられないで忙いからと狭い横丁や危い電車通りで遊んで居る幼児から見ると一年でも教育を受けられるのは幸福と言わなければなりません。

このような子どもにも仲良く協力して幸福をわけ合つて行く心も育てたいと思ひます。

(東京・台東幼稚園長)